

滑 稽 新 聞 社

〒444-0103 愛知県額田郡幸田町
大字入草字称宜屋敷(榊木)63-1
普通の暮らしが何と嬉しいことばの号
第341号 創刊1990年7月28日
Email: kokkei1949@yahoo.co.jp

新 滑 稽

しめめせ

生きている

健康がある

手が動く

足で歩ける

目が見える

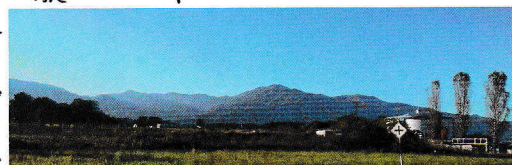
耳が聞こえる

この当り前の事の中に
たのびとてない
しめめせがある。

東井義雄

ソロリ活動再開 栗を跨ぐ旅 伊那へ

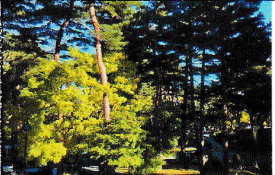
こんな市場見たことがない。だから又
行きたくなるへな魁刀一杯の場下。
コロリが沈静化し、動きたくなり、まが「伊那
のグリーン・ファームに行こう」と言ったら、
丁度2年前にここを訪れ、少なからぬ判教
を受けた異様に(妻の)好奇心をくすぐられるスポットだ。
これ以上無いと言う秋晴れの日、ここで行く時間
を過ぎた。ここがどい程「へん」と言つと……産直市場
のど、りんごや柿等の野菜・果物は、ズラ
ーと並んでいる。流石信州と思わせてしまう
のは、ジビエ肉(猪鹿)はふか、どろ肉や
イナゴ、蜂の巣、金魚まで売っている。
食料品のやたらと、日用品から貴重品まで、お客が
買いそうな物が、これぞひか、く」と言う値段列でい
る。この日第一目的だった松茸は、高かったの、白いだけ
かいて諦め、代りに漆塗りのおひつと超安価で入りました。



この日は雲一つ無い中央アルプス(美濃、たこ!)



汁ノスイートパズリ並ぶ



心が癒されるおひつはガーデン

美味しうに舌鼓を
打った。新鮮な空
気の下秋と満喫した。



この日は最後の収穫

一年ぶりの楽酒会

家飲々に飽
きたら、コロナ

福も沈静化して来たこの時期、誰言つとも
に楽酒会再開の語がまとまった。こう言つた語は
すぐ決まる。「杉浦さん松茸合食なら今月だよ」と合意。道楽の岩崎さんの
提案で料亭「一升」で一年ぶりに皆と再会。地元額田の
山で採れた松茸と茶一く載せた。この時期ならではの
の合杯——自然着、銀杏、里芋、若鮎の味に、秋と感
じながら当地の銘酒「孝の司」に喉
を鳴らした。「美は短歌に造詣が深
い山崎さん」とか、銀杏は月輪に効くんぞ、イナゴの煮て
りから、とニョウトニチンカンの事と言う人がいるけど、本当はも
っと下の方に効くんぞだ」と言つた伊井先生の、酒の上での話
などが披露され、ス々の楽酒会は美味、秘話、地酒のハイモニーとなった。



秋の味覚と堪能したメンバー

アッシは考えない茸

碧南市・女城中の境にある天然湖沼
「油が淵」の水質浄化を目的に14年
前には先輩の山中さんが始められた茸船子夜。水質浄化作用がある茸
を刈り取り船を作る。毎年行なつて又夫な
茸を育てる。地元の子供達と一緒に船を
作り、楽船会が啓蒙活動につなげる。
今年も最終年とつことなめて参加させて
もらった。ボートに来るなんて何年ぶり?
人間口考える茸である。バスカルは言った
か船の上のアッシは何も考えてはいなかった。

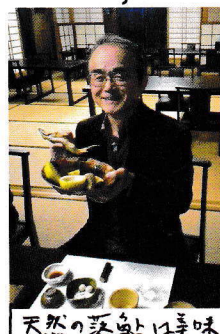


高田先輩に助けられたら「ローボート」

「人間口考える茸である」とバスカルは言った
か船の上のアッシは何も考えてはいなかった。



地元産の豆派は松茸



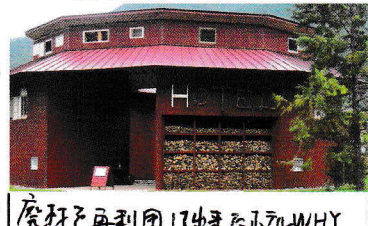
天然の若鮎は美味



ゼロ・ウエストセンター-全景「？」の形に

上勝町とつながった

四国で一番小さい町徳島県上勝町(人口約1500人)は以前葉っぱビジネス(有名になったが、今は「真のゴミゼロの町」として全国に名を馳せている。ラジオでそれを知り、かつて交流のあった東さんに手紙を書いた。母は8年前に逝き、カネを開きたいという節はみ立ち降り下さい」と言う長女輝美さんからだった。驚いたと同時に感動させられた。改めてネット調べてみたらこの町は凄い。ゴミと45項目に分類。リサイクル率80%。ゼロ・ウエスト宣言をし、2030年を目標に町を挙げて、G5活動に取り組んでいる。町民のココロが一つの方向に定まると凄いいことになる。自分の目でこの町を見てみたい。



廃材を再利用して出来た元WHY

実りの秋○故の秋

うねり又農業(衣向は自然農法)でも種を播けば生える

「苗を植之ぬは育つ。そして実りの秋を迎え。収穫の嬉しさに浸る。安全な野菜が入れたおわり食卓に登場する度に妻と「ありがたいことだねー」と自然の恵みに感謝する。西尾の匠久間様から大量の銀杏の葉を頂いた。食べ過ぎには要注意。滋養食強壮効果大。人間の生理的欲求をオジサンはどうしたら良いの？



サツマ芋と地産産品



杉浦農園の生季と里芋



お香の銀杏

松茸を見ると男は俺の方が大きい」とか「長さは負けた」と思っている。男と交差した人は俺はラフランス(洋梨)用なり」とか。と呟く。

90歳のノーベル物理学賞

受賞者が誕生した。真鍋淑郎博士。



調和の中で生きる能力が

自由で自分の考えが語れるアメリカに移住して、その潜在力が発揮されたとは本人談。ニュースを見ていた妻が、めだたも90歳まで滑稽新聞続けなさいよ。何とか新聞賞々たいな賞貰えるかも知れないから」と言う。しかし「その時(読者曰)誰かいなった」とアガサ・クリスティーが耳元で囁いた。読者も耳を取る。



イエローは、とさせられた。タイヤ交換して貰っためにイエローハットを訪ねた。受け付けを済ませて待っていたらスタッフが慌ててやって来て「お客様、この車は車検が切れているのでタイヤ交換できません」と言う。エーッ！一瞬驚いて、くりに戻り、翌日民間車検に依頼。車検切れで運転すると即刻免許停止という。イエローで救われた。危うくレッドカードだった。

発汗箱感

「万博オタク」として開幕。万博オタクとして



ドバイ万博のコンパムと会場



フルーツの織

「は是非行きたい。しかしこのコロナ禍では...」と別号の大根の写真を見た。千葉の若大将読者から、大根は載せてもいいけど、コンは載せないでね。僕は滑稽新聞を読んでいる時が一番辛かった。10月から土曜日の郵便配達が無くなった。週末の乗客も減。10月と言いつつ早くも新ストロブに点火。今年収穫したサツマ芋と焼き芋にヒリヒリピサを焼いたりするのが嬉しい。



フルーツの織

「オジサンはどついたら良いの？」



ストーブ